

震災後の新しい農都交流型ツーリズムの実証調査プロジェクト

概要

都市と農村の強い連携を構築し、それぞれの課題解決に向けた取り組みと持続可能な組織を構築するため、企業の社員研修等の受け入れを進めるための体制づくりとプログラムづくりを行った。構築したプログラムによってモニターツアーなどによる交流実証を進め、交流課題の把握を努め、持続的な経済活動に発展するよう実証調査を行った。

事業の内容

- 【体制づくり】 ～都内と町内に次の体制を構築する～
 - ・飯豊型ニューツーリズム実行委員会（観光協会・農家民宿・緑のふるさと公社等）
 - ・都市型企业
 - ・団体コンソーシアム（JTBコーポレートセールスを窓口企業と大学が参加）
- 【プログラムづくり】 ～創られた体制メンバーで次のプログラムを構築する～
 - ・農村体験・農作業体験・暮らしと社会の分野で体験できる内容を整理する。
- 【モニターツアーによる実証】 ～都市型企业、都市部の学生の参加による検証を行う～
- 【情報発信】 ～セミナーなどによる情報発信を行う～
 - ・都内と町内でセミナー等を開催する。
 - ・ホームページと動画による情報発信を行う。
- 【総事業費】 10百万円

事業の成果

- 都市と農村の新たな連携に、人材育成の場として農村の暮らしや文化、農作業が有効であることが認められた。
- 都市と農村のそれぞれの課題を相互の交流から解決しようとする理念の理解が深まり、連携できる団体を構築することができた。
- 農村の新たな価値を発見し、地域の中に活気が出始めている。
- 連携する企業との交流から経済的効果が見込まれ、持続する農山村モデルの一つとなれ得る。

山形県飯豊町

